



バーガー（聖なる天蓋）、ルックマン（見えない宗教）

8. 宗教概念（仮説）

広すぎず・狭すぎず

- ・ティリッヒ：広義（意味根拠としての宗教）と狭義（制度化された既成宗教）
- ・デューイ：『誰でも宗教』（春秋社）

宗教と宗教的（名詞と形容詞）

9. ルター「大教理問答書」、『信条集 前篇』新教出版社 91頁

「金と財産をもっている時に、自分では神とあらゆるものを豊富にもっていると考え、これに信頼して、高慢にも人に対して何とも思わない者が多くある。見よ、このような人はまた、マンモンという名の一つの神、すなわち、金と財産をもっており、彼はそれに自分の全心をおいている。そして、かかるものは地上でもっとも一般的な偶像である。……同様にまた、すぐれた技術・才能・寵愛・友情・名誉、をもっていることに信頼してそれを誇る者も、一つの神をもっているが、それは唯一のまことの神ではない。」

<文献>

1. 芦名定道・小原克博 『キリスト教と現代 終末思想の歴史的展開』（世界思想社）
2. 芦名定道 『ティリッヒと現代宗教論』（北樹出版）
3. 金子晴勇 『近代人の宿命とキリスト教 世俗化の人間学的考察』（聖学院大学出版会）
4. 金子晴勇編 『人間学 その歴史と射程』（創文社）
5. バーガー＝ルックマン 『日常世界の構成』（新曜社）
6. バーガー 『聖なる天蓋 神聖世界の社会学』（新曜社）
7. ルックマン 『見ない宗教 現代宗教社会学入門』（ヨルダン社）
8. カッシーラー 『人間 - この象徴を操るもの - 』（岩波書店）  
『シンボル形式の哲学（一）（二）（三）』（岩波文庫）